

次なる一手

地域とともにある学校づくりに向けた連携・協働

～地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進～

利根沼田管内では、ここ数年で学校運営協議会の設置が急速に進み、多くの学校がコミュニティ・スクールとなりました。また、地域学校協働活動についても「利根・沼田の教育」第51号で、充実するための方向性として「総合的な学習の時間」や「特別活動」において、児童生徒の『社会参画』を意識した取組を紹介したところ、社会教育主事の学校訪問では、その様子を多く見させてもらっています。そこで、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進するために、今後の在り方について考えていただけたらと思います。



<校長>

コミュニティ・スクールになったので、地域との連携が活発になると思ったのですが…。

学校のお手伝いを長年やっていますが、今後も同じような関わりでいいのでしょうか？



<地域協力者>

体制は整ってきましたが、課題も聞こえてきています。そこで、学校訪問で見えてきた課題を踏まえ【具体的な方策】と【一体的推進のためのポイント】をご紹介します。



<社会教育主事>

コミュニティ・スクール

地域学校協働活動

【課題】

- ①「形式的な承認」と「参観授業の感想」が多いと思う。
- ②「熟議」はするが、その後、どうすればいいのかわからない。
- ③教職員全員の理解がなかなか進んでいない。

【課題】

- ①活動は増えているが、成果につながっているか不安である。
- ②前例踏襲の「支援活動」だけに感じてしまう。
- ③学校と地域それぞれが負担に感じている活動もある。

【具体的な方策】

- ①子どもや学校の課題及び未来の姿について協議する。
- ②多様な意見を、教育課程や学校運営へ反映する。
- ③管理職だけでなく全教職員で共有する機会をつくる。

【具体的な方策】

- ①ねらいや期待される効果及び成果を共有する。
- ②地域づくりの視点をもった活動を計画し実施する。
- ③活動を見直して改善し、学校と地域の役割分担を整理する。

【実践例】

白沢小中学校運営協議会では、小中学校の教職員と地域住民が集まり「育てたい子ども像」について「熟議」を行いました。子どもや学校に関わる課題について、関係者全員で思いを共有する機会となりました。



地域学校協働活動推進員

【実践例】

水上小学校では、計画段階から地域のひとと相談し、地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた探究的な学習を系統的に行っています。地域とのつながりが生まれたことで、地域活動の活性化にもつながっています。



【一体的推進のためのポイント】

①「体制整備」

- ・保護者、地域住民、教職員、児童・生徒等の多様な意見を吸い上げ、教育課程や学校運営へ反映しましょう。
- ・学校と地域で子どもや学校の課題について協議し、学校の教育目標や目指す子ども像について共有しましょう。
- ・地域学校協働活動推進員を委嘱し、活躍する場面をつくりましょう。

②「教育目標や目指す児童生徒像を共有した上での地域学校協働活動」

- ・教育目標やビジョンに基づいた「学校教育の充実・改善」と「社会教育や地域活動の充実・改善」を協議しましょう。
- ・実践後の振り返りにより、成果や課題について学校と地域とで共有しましょう。

③「社会に開かれた教育課程の開発」

- ・教育目標を達成するための「魅力的な教育計画や授業」を地域の特色を生かしながら開発しましょう。
- ・成果の評価・改善についての「熟議」を学校と地域とで実施しましょう。

CSの運営状態やCSの成果を可視化するためのツールとして「CSポートフォリオ」が文科省のWebページ上で公開されています。



<CSポートフォリオ>



<チェックシート>

客観的な指標やデータに基づいて、学校と地域で「対話」を行うことで、次なる一手が考えられます。利根教育事務所の「充実した地域学校協働活動のためのチェックシート」と併せて、活用してはいかがでしょうか。



<社会教育主事>

「群馬県教育ビジョン」でも以下の視点が示されています。

視点① 大人も、子どもも社会的な“一人の主体”

視点② 学校で、家庭で、地域で…自ら学び育つ、共に学び育つ

これらの視点を持って、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進し、ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』を目指していきましょう。